

2M-8

ワークステーションに対する、
リモートインストールの一方式

山崎竹治, 河原隆一

(株) 富士通神戸エンジニアリング

1. はじめに

近年のネットワークシステムの動向として、ダウンサイジング化が進み、パソコン/ワークステーション(以降PC/WSと呼ぶ)上で様々なソフトウェアを組み合わせ、利用者主体のネットワークシステムを構築し運用するようになっている。これに伴い、それらの初期導入/ソフトウェア管理に要する工数が問題となってきた。

2. 従来の問題点

PC/WSへの製品の初期導入/ソフトウェアの管理に関して、以下の様な問題が存在する。

(1) 製品媒体の管理が困難

PC/WSの台数分の製品媒体(フロッピーディスク等)を管理する必要がある。このため、PC/WSの台数が増加する度に管理媒体数が増加し、製品管理が煩雑になる。

(2) インストール工数の増大

インストール作業についても、PC/WSの台数の増加に伴って、作業工数が増加する。また、管理するPC/WSが本社/支社等に分散する場合は、そのPC/WSが存在する現地への移動に要する時間が必要となり、工数の増加の一因となっている。

(3) 製品構成の管理が困難

PC/WSでの製品構成情報は、個々のPC/WSにおいて管理する必要がある。それら製品構成管理に費やす工数も増大化する傾向にある。

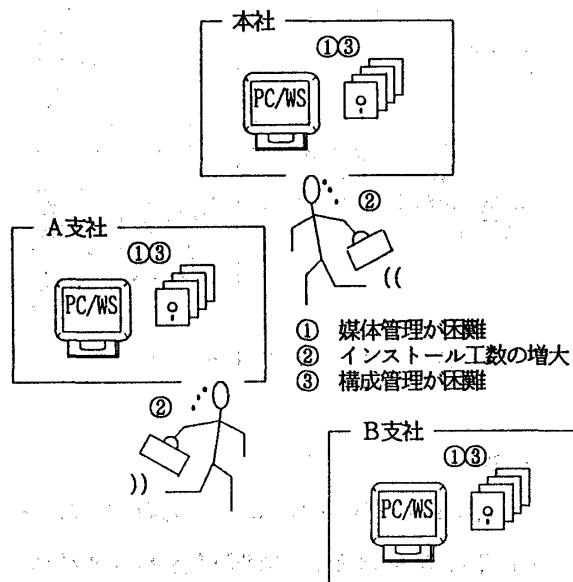


図1 従来の問題点

3. 問題に対する解決方法

上記問題点を解決するために、リモートインストール(遠隔インストール)を行うことを可能とする。

これは、初回時のみ製品をホストシステムのファイルに登録することによって、ホストシステムに格納された製品を、回線を経由して、PC/WSにインストール処理するものである。また、この履歴情報をホストシステムで蓄積、管理することにより、PC/WSの構成情報まで管理する。

これに加えて、製品データを分割した単位で送信することによって、極端にデータ量が多いような製品の転送時に回線断等の異常が発生した場合の時間的ロスを極小に抑えることを可能とする。

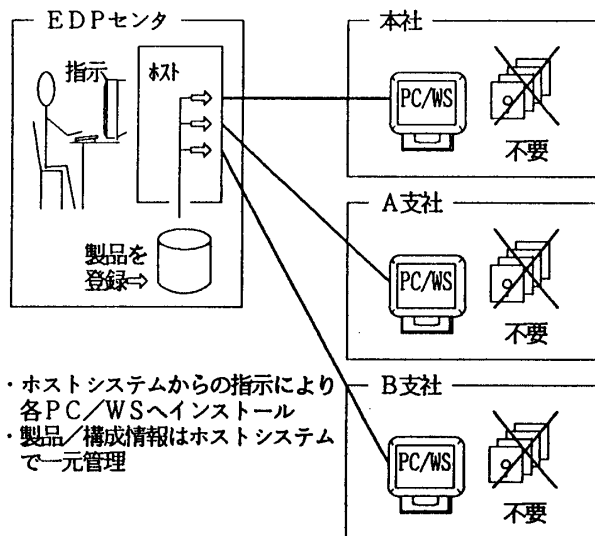


図2 リモートインストール方式

5. 評価

上記の方法により、PC/WSへの製品のインストールに必要となる作業及びその管理工数を大幅に削減することができる。

なお、上記を行う上での今後の課題として、OSを含めた基本システムのリモートインストール、各種動作環境情報/ハードウェア情報まで含めたPC/WSの構成管理、論理ボリューム毎のインストール、等を実現する必要があると考えており、これらに方式についても検討していく必要がある。